

01	名古屋	城北小学校	ナガタ マサヒロ	
			名前	永田 匡弘

分科会番号	12	分科会名	自治的諸活動と生活指導（小学校）
-------	----	------	------------------

研究題目 よりよい自分へと成長しようとする児童の育成

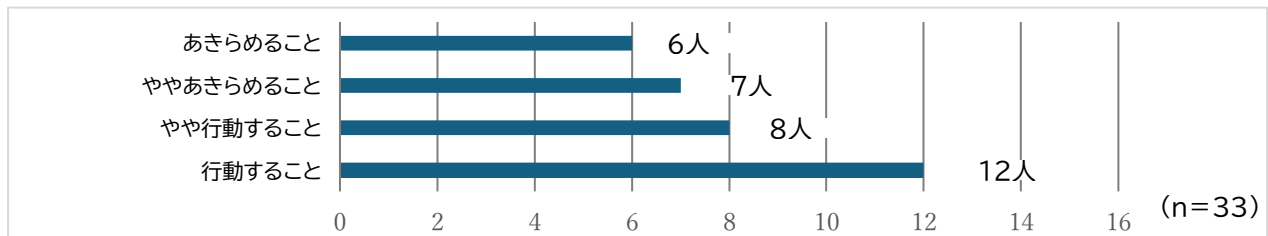
1 研究のねらい

私は、よりよい自分へと成長しようとする児童を育てたい。私の考えるよりよい自分へと成長しようとする児童とは、「自分にはこんないいところがある」「これならできそうだと、自分のよさや可能性に基づき自ら挑戦したいことを考え、行動することができる児童である。児童がよりよい自分へと成長しようとすることができれば、学習や生活における悩みや困難に立ち向かう姿勢に繋がり、工夫して解決することができると思う。

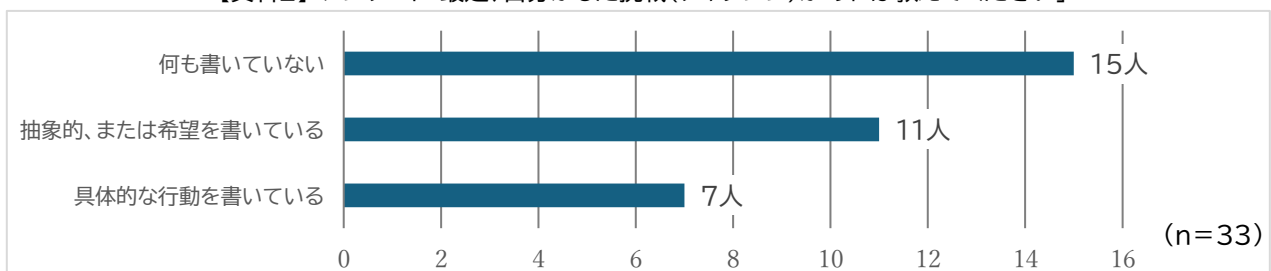
本学級の児童（小学校5年生33名）は、自分でできる、やってみたいという、自分の意思で判断して行動したいと考えており、それは年度当初の係活動でも、計画として様々な案を出す姿から強く感じられた。しかし、運動が好きな人たちが集まった運動系の計画は「学級のみんなが、25分間鬼ごっこをする」、学級でアンケートを取って調べたことや描いた漫画をみんなに紹介したいと始めた新聞系の計画は「毎週月曜日に新しい新聞を掲示する」という、自分たちのよさや可能性を生かせる計画ではなかった。そのため、実際に活動を行っても係自身が満足する活動にならなかったり、継続して行うことができなかったりする姿が見られた。

4月末に行ったアンケートでは、「『やってみよう』と思って行動することと、『無理だな』と思ってあきらめること、どちらが多いですか」という質問で、20名の児童が「行動することが多い」と回答した【資料1】。しかし、「最近、自分がした挑戦（チャレンジ）があれば教えてください」という質問では、具体的な内容を書くことができたのは7名だった【資料2】。このことから、本学級の児童は自ら挑戦したいという思いはあるものの、自分は何をできるのか具体的なイメージをもっておらず、実際に行動することまではできていないことが分かった。

【資料1】 アンケート『やってみよう』と思って行動することと、『無理だな』と思ってあきらめること、どちらが多いですか



【資料2】 アンケート「最近、自分がした挑戦(チャレンジ)があれば教えてください」



そこで、自分自身のよさや可能性について客観的に捉え、よさや可能性を生かせる行動、すなわち自分に合った行動を考える活動と、それに実際に取り組み、振り返る活動を通して、よりよい自分へと成長をしようとする児童を育成しようと考えた。

2 実践の進め方

次のような実践計画を立てた。

児童が自分で気付いていたよさや可能性だけでなく、今まで気付いていなかったよさや可能性にも目を向けられるように、実践1「発見、『じぶん図鑑』！」を行う。グループワークトレーニング（GWT）を通して、好きなことや得意なこと、嫌いなことや苦手なこと、性格について知ることができるようにする。

さらに、友達とそれぞれのよいところを伝え合うことで、自分自身を客観的に捉えられるようにする。

また、実践2「Peak up!」は、自己決定理論に基づき、児童の「自律性」「有能感」「関係性」の充足を目指して構想した。まず、実践1で明らかになった自分のよさや可能性を基に、自分に合った行動を考え、取り組むことで、自律性を高める。次に、振り返りを通して「できた」という達成感や満足感を味わうことで有能感を高める。さらに、自分の取り組みを友達と共有し、認め合う場を設けることで関係性の充足を図る。このようにして、よりよい自分へと成長しようとする児童を育む。

3 実践の内容

実践1 発見、「じぶん図鑑」！ 【6月】

(1) ねらい

今まで気付いていなかった、自分のよさや可能性について知ることができる。

(2) 実践の方法

まず、自分の好きなことや得意なこと、嫌いなことや苦手なこと、性格について振り返る活動を行い、自分自身についてどのくらい客観的に捉えられているのか確認する。次に、GWTを行い、その中で取ったメモを見ながら「自分はどんな人なのか」と、自分のよさや可能性を考えられるようにする。そして、GWTを通して知った自分のよさや可能性を「じぶん図鑑」としてまとめていく。この「じぶん図鑑」を基に、自分に合った行動とはどのような行動なのか考えることができるようにする。

(3) 実践の様子

まず、自分のよさや可能性について振り返る活動を行った。

教師：自分の性格や、自分が好きなこと、苦手なことなどをプリントに書きましょう。

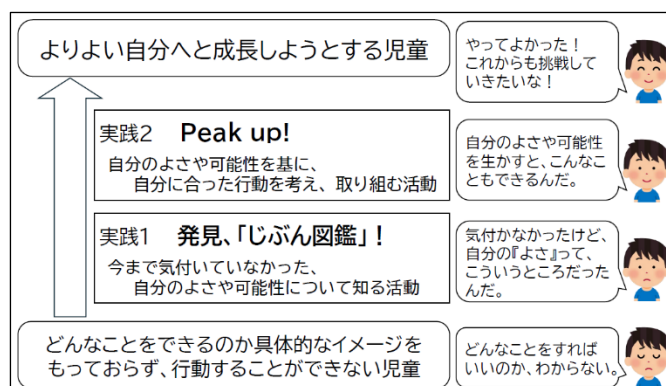
児童A：好きな食べ物とか、好きなスポーツとかじゃダメですか？

教師：書いてもいいけど、「食べること」とか「～すること」みたいに、「こと」で終わるようなものも考えてほしいな。

児童A：難しいなあ。

児童B：好きなものとかは思いつくけど、得意なこととかは思いつかないや。

【資料3】実践計画図



児童は、好きなものや嫌いなものなど、物の名前を書くことはできていたものの、好きなことや嫌いなことなど、行動として考えることは難しい様子だった。また性格については「面倒くさがり」や「怒りっぽい」などマイナスな印象を書く児童が多かった【資料4】。

児童は自分自身について「なぜそれが好きなのか」といった理由や根拠を行動と結び付けて考えることができておらず、さらに自分に対する評価も低いこ

とが分かった。そこで、行動から自他のよさを見付けることができるGWTを行い、自他の行動をよさとして捉えることができるようにした。

GWTとして、「人間コピー」【資料5】や、「先生たちの席替え」を行った。「人間コピー」では、元の絵を見ずに絵をかく役割と元の絵を見て情報を伝える役割とで協力することで、絵の詳細を伝えようと分かりやすく説明する優しさや表現力に気付かせることを目的とした。「先生たちの席替え」では、一

人一人に配られた情報を基に、先生たちの席の場所を当てる論理思考クイズを解くことで、情報を整理する力や思考力について気付かせることを目的にした。

【資料5】人間コピーで使用した絵と児童が描いた絵



以下は「人間コピー」を行った後の児童との会話である。

児童A： 俺、めちゃくちゃ絵が下手だった。

教師： 全く一緒にするのは難しいよ。雰囲気をつかめていたらOKだからね。

児童A： 何を描いたのか分からないところもあるし…。

児童B： でも私が絵を描く番のとき、Aさんが絵の特徴を分かりやすく伝えてくれていたから助かったよ。

児童A： 本当？それなら良かった。

振り返りの記述をしながら、同じグループで活動した友達とそれぞれのよさについて話す姿も多く見られ、友達のよさに気付くことができていた。しかし、自分自身のよさについて記述できた児童は少なく、苦手や不得意などのマイナス面で記述することが多かった

【資料6】。児童が自分の行動からよさを見付けようとすると、友達の行動との比較をするため自己評価が低くなってしまったことが考えられる。そこで、自分のよさを理由や根拠とともに友達から伝えられる活動に変えることにした。

【資料6】児童の自身の振り返りと友達への記述

新しく発見した自分の持ちようや性格をメモしていこう。				
日にち	発見した自分の持ちようや性格			
6/23	メモやまとめるのが、ちょっと苦手。			
同じ班の仲間の、今まで知らなかった姿、初めて知った姿をメモしよう。				
日にち	さん	さん	さん	さん
6/23	意見をまとめるのが上手。	伝えるのが上手。	分かるのが早い。	

そこで、「私の四面鏡」や「☆いくつ」の活動を行った。「私の四面鏡」の活動では、「しっかりしている」「親切」などの内面的なよさ45項目から友達に自分の性格として当てはまるものを複数選んで伝えてもらうことで、自分では気付いていなかった、自分の内面的なよさについて知ることを目的とした。「☆いくつ」の活動では、「自分をコントロールする

力」「工夫する力」などの授業や生活の中で生かすことができる力9項目に対して、自分に当てはまる力に自分で☆を10個、さらに友達から評価された後にさらに5個塗ることで、自分では気付いていなかった、行動に表れる自分のよさについて知ることを目的とした。また、友達のよさを伝える時に、そこに○を付けた理由や星に色を塗った理由も伝えるようにすることで、自分のよさを詳しく知ることができるようにした。

以下は「私の四面鏡」を行った後の児童との会話である。

教師：「私の四面鏡」をやってみた感想を教えてください。

児童A：自分が思っていなかったところに○がついていてびっくりしました。

児童B：友達がそんな風に思ってくれていたんだ、と思ってうれしかったです。

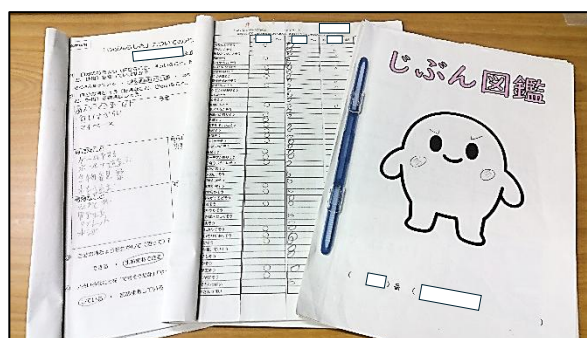
教師：自分が知らなかった自分を知ることができたと思えましたか？

児童B：知ることができたこともうれしかったけど、自分がよさだと思っていたところにも○がついていたから、それも嬉しかったです。

活動の振り返りでは自分のよさや可能性について好意的に捉える児童が多かった。また友達から○を付けた理由を聞くことで、自分とは違う視点でのよさや可能性に気付かされる様子も見られた。

【資料7】児童の「じぶん図鑑」

これらのGWTを行った後で、それぞれのプリントを一つにまとめ、「じぶん図鑑」としてまとめる活動を行った【資料7】。「じぶん図鑑」を見ながらほほえんだり、友達と見せ合って自慢げにしたりするなど、自分のよさを自信にしている様子も見られた。



(4) 成果と課題

「発見、『じぶん図鑑』！」の活動を通して、児童一人一人が自分のよさや可能性について知ることができた。振り返りにも「自分が気付かなかったことが分かってうれしかった」「新たな自分を見付けられた」など、友達から指摘されたよさについても否定せずに受け止めることができおり、自分のよさを他者からの評価で捉えることができた。

一方で、自ら自分のよさや可能性に気付くことがまだ難しかったことが挙げられる。そこで実践2では、自分のよさや可能性を生かす行動を考える活動を友達と一緒にやり、友達からのアドバイスをもらうようにする。よさや可能性を生かしてやってほしい行動やできそうな行動を友達からアドバイスされることで、自分のよさや可能性を具体的な行動に結び付けられるようにしていく。

実践2 Peak up! 【7月】

(1) ねらい

自分のよさや可能性を基に、自分に合った行動を考え、取り組むことができる。

(2) 実践の方法

まず、児童は実践1で作成した「じぶん図鑑」を見ながら自分のよさを三つ選び、そのよさを生かしてできそうな行動を考える。友達にも自分の選んだよさを伝えとともに、「どんなことをしてくれるとうれしいか」「自分だったらどういう行動ができるか」という二つの視点から、友達からアドバイスとして付箋に書いて伝える。

次に、自分で考えたりアドバイスをもらったりしたよさを生かした行動を、その行動をす

るチャンスの多さ（頻度）と自分にとっての難しさ（難易度）の2軸で並び替える。並び替えをすることで、一つ一つの行動が自分にできることなのかを考える手助けとなるようにする。そして並び替えた行動の中から1週間取り組みたいものを一〜三つ選ぶ。

(3) 実践の様子

自分のよさを選ぶ活動では、じぶん図鑑の「私の四面鏡」や「☆いくつ」で友達からもらった評価を振り返りながら自分のよさを考える児童が多く見られた。なぜそのよさを選んだのか理由を聞くと、「友達が言ってくれたから」と答える児童もあり、友達から評価されたことを自分のよさとして捉えるとともに、自信をもてていることが分かった。また、友達と一緒に自分のよさを生かした行動を考える活動では、『面白い』からみんなを楽しませることをしてほしい』『優しい』だと、みんなが助かると思うことをたくさんするとかはどうか？」など、様々な意見とともに友達のよさを生かす行動をアドバイスする様子が見られた【資料8】。

以下は、アドバイスが書いてある付箋を頻度と難易度の2軸で並び替えをする活動での様子である。

【資料8】友達と一緒に、自分のよさを生かす行動を考える児童の様子

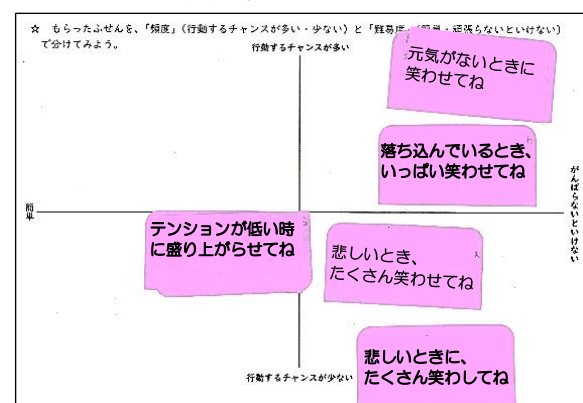


- 児童A： この「笑わせてね」ってどうすればいいの？
 児童B： いつも面白いことすればいいんじゃない？
 児童A： それは恥ずかしいし、難しいよ。
 児童C： 元気が出ない時に笑わせてくれたら嬉しいなって思って書いたよ。
 児童A： なるほど、それなら難しいかもしれないけど、チャンスはある気がするな。
 児童B： じゃあ、テンションが低いときに盛り上げてね、くらいだったらどう？
 児童A： 盛り上げる、だったら笑わせるよりは簡単な気がする。

児童Aのように、もらったアドバイスについて質問をして、自分にできそうなことなのか考えながら付箋を並び替える児童の様子が見られた【資料9】。

並び替えた付箋を基に行動を選び、1週間取り組んだ。児童Aは「悲しいときに笑わせる」など三つの行動に取り組んだ。振り返りを見ると、行動できた日数は少ないものの、行動したことで相手が笑ってくれたことへの達成感を得ている様子がうかがえた。また、友達から「中津川（集団宿泊的行事）でも期待しているよ」「みんなの雰囲気を明るくしてね」など認められるコメントをもらったことで満足感を得るとともに、『面白くして』以外なら全部やってみたい」と次の行動に対する高い意欲をもてた様子が見られた【資料10】。

【資料9】よさを生かす行動を並び替えた後の児童Aのプリント



【資料10】児童Aの振り返りの一部

ふりかえり	生かす自分のよさ	いつ・どこで・どんなことをする	これを選んだ理由？
	3	面白くする	悲しい時に、学校で笑わせる
	行動できた日にち	達成度	コメント（行動した感想、友達の見返り）
	7月14日	20 %	けっこう、笑ってた

【うまくいったこと、次にやってみたいこと】
 「面白くして」以外なら全部やってみたい

(4) 成果と課題

「Peak up!」の活動を通して、自分に合った行動に取り組み、満足感や達成感を得たことで今後も続けたい、何かに取り組みたいと積極的に継続しようとする意欲をもつことができた。活動の振り返りで、「中津川野外学習でも、手伝えることを見付けて手伝う」「中津川野外学習でも困っている人に声を掛ける」など、夏季休業中に行う行事で自分に合った行動をしようとする児童も多くみられた。

しかし、自分で決めた行動に取り組めなかった児童もみられた【資料 11】。その理由として「忘れていた」「機会がなかった」と記述する児童が多かった。自分が決めた行動を確認する時間や見直す時間を設定する必要性を感じた。

【資料 11】自分のよさを生かした行動ができた人数

自分が考えた行動を全て、最低 1 日はできた	20
自分が考えた行動で、1 日もできなかったものがある	8
自分が考えた行動全て、1 日もできなかった	5

4 実践のまとめ

今回の実践を通して、児童は自分に合った行動を考え、取り組もうとする意識が高まってきた。児童 A は、夏季休業中に行った中津川野外学習でも、キャンプファイヤーで率先して大きな声を出して歌ったり、部屋の中で中心となってゲームをしたりと、自分のよさである「面白い」を生かして行事を盛り上げようと行動する姿が多く見られた。他の児童も係の仕事が大変そうだからと手伝ったり、1 学期に関わりが少なかった人にも話し掛けに行ったりと、それぞれのよさを生かして、自分に合った行動をしようとする姿が多く見られた。このような変容が見られた背景には、自分のよさや可能性を見つめ直した上で、自ら行動目標を設定し、友達と認め合いながら取り組むことができたことがあると考える。児童は、自分で目標を選択することで主体性をもち、行動できた達成感や友達から認められた満足感を得たことで、自分に合った行動への意欲を高めることができたと考えられる。

今後の課題として、一部の児童の「自分に合った行動をしたい」という意欲を高めることができなかったことが挙げられる。実践 2 では自己決定理論に基づき実践を行ったが、一部の児童については、「友達に言われたから」と、自分で選んだという意識が低いまま自分の行動を選ぶ児童や、「するのが簡単だから」「いつもやってるから」など、今できていることをそのまま行動として選ぶ児童がいた。また、自分のよさから具体的な行動を考えることができていない児童は、「機会がなかった」「何も思い付かなかった」と行動に取り組めていない様子も見られた【資料 12】。それらの児童は自律性や有能感の欲求を満たせていない可能性があり、自分に合った行動をしていこうというやる気も高まらないため、これから継続して行動していくことも難しくなると考えられる。

それらの児童に対して、自分と同じよさをもっている友達がどのような行動に取り組んでいるのか観察する時間を設けたり、友達の行動をまねして行うように声を掛けたりしていく。どのような行動をすると自分のよさが生かせるのか、具体的なイメージをもてることによって、「これならできそう、自分もやれるようになりたい。」とよりよい自分へと成長しようとする姿に近付くと考えられる。

【資料 12】課題が見られた児童の記述

生かす自分のよさ	いつ・どこで・どんなことをする	これを選んだ理由は？
1 みんなを笑わす	どこでも、友達を笑わす	いつもやってるから
ふりかえり	行動できた日にち	達成度
	1 日だけ	15 %
		コメント (行動した感想、友達への反応)
		あまり友達を笑わせられなかった

生かす自分のよさ	いつ・どこで・どんなことをする	これを選んだ理由は？
2 なんでもあきらめない	あきらめないようにする	一人がそうやって書いてくれた
ふりかえり	行動できた日にち	達成度
	やれていない	5 %
		コメント (行動した感想、友達への反応)
		大きな機会がなかった

生かす自分のよさ	いつ・どこで・どんなことをする	これを選んだ理由は？
3 面白い	学校を面白くする	もっと笑わせられるようにしたいから
ふりかえり	行動できた日にち	達成度
	やれていない	10 %
		コメント (行動した感想、友達への反応)
		面白いことが思いつかなかった